

鹿角市地域公共交通計画

－ 概要版 －

令和 5 年 3 月

鹿角市

1 計画の背景と目的

本市の公共交通は、JR 花輪線、路線バス、乗合タクシー、デマンド交通、一般乗用タクシーがそれぞれ運行しており、市民の日常生活に欠かせない移動手段となっています。しかしながら、自家用車の普及や人口減少などにより、公共交通の利用者は年々減少し、公共交通機関の確保・維持が大変厳しい状況となっていることから、平成 28 年 3 月(令和 4 年 3 月改定)に「鹿角市地域公共交通網形成計画」を策定し、持続可能な公共交通体系の構築を進めてきました。

今後も地域公共交通活性化再生法等の改正を踏まえつつ、本市における公共交通のあり方から具体的な再編内容まで検討し、市民にとって利用しやすく、将来にわたり持続可能な交通体系を構築し、公共交通のマスタープランとなる「鹿角市地域公共交通計画」を策定します。

計画区域 鹿 角 市 全 域

計画期間 令 和 5 年 度 から 令 和 9 年 度 ま で (5 年 間)

2 地域公共交通の構築に係る基本理念・基本方針・基本目標

基本理念

多様なつながりが生まれ誰もが安全・安心に暮らし続けられるまちの実現

基本方針 1

市民・来訪者など地域が使える公共交通ネットワークの形成

基本方針 2

多様な主体の連携による地域で支える持続可能な公共交通の体制構築

計画目標の達成状況を評価するための評価指標

基本目標	評価指標	単位	現状値 令和3年度	目標値 令和9年度
基本目標1: 誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの形成	市民1人あたりの公共交通の利用回数	回/年	8.9	8.9
	公共交通空白地域(自治会単位)の割合	%/年	15.0	11.4
基本目標2: 分かりやすく・使ってみたいと思える利用環境の充実	高校生の通学手段に占める公共交通の割合	%/年	12.0	20.0
基本目標3: 持続可能な公共交通の基盤整備	路線バスの収支率	%/年	25.0	20.0

公共交通ネットワークの将来像

秋田県地域公共交通計画と連携し、市町村間の日常生活の移動に必要な地域間連携軸として地域間幹線系統の確保・維持を図ります。特に、乗車密度の低下が著しいことから、路線の効率化などによる改善策の検討や、交通事業者・近隣市町村を中心として利用促進の展開を進めます。

ハブ拠点は、各地域の主要なポイントとして、都市間・圏域間連携軸、地域間連携軸(地域間幹線系統)及び地域内の公共交通ネットワークとの接続性の確保を図ります。

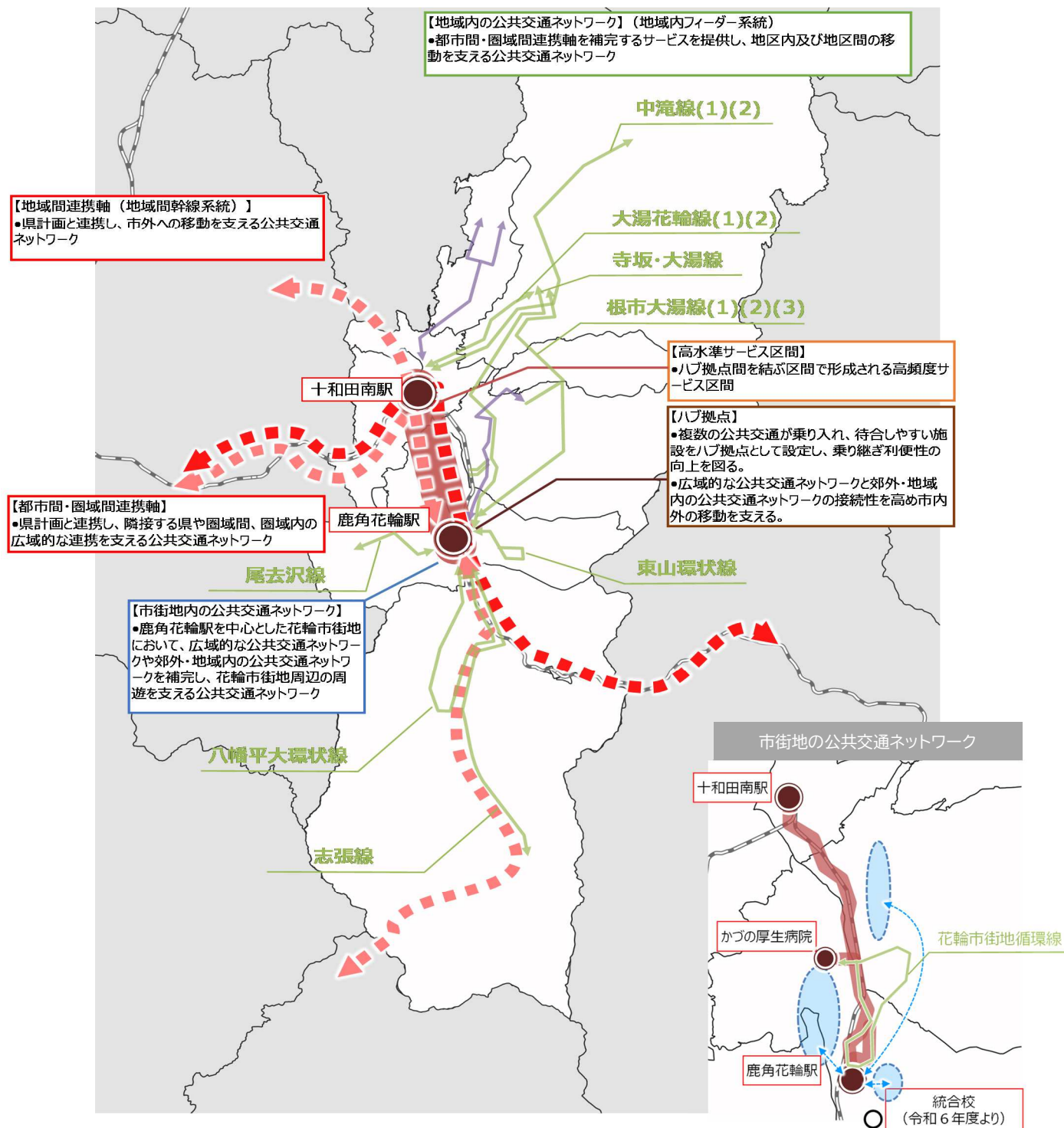
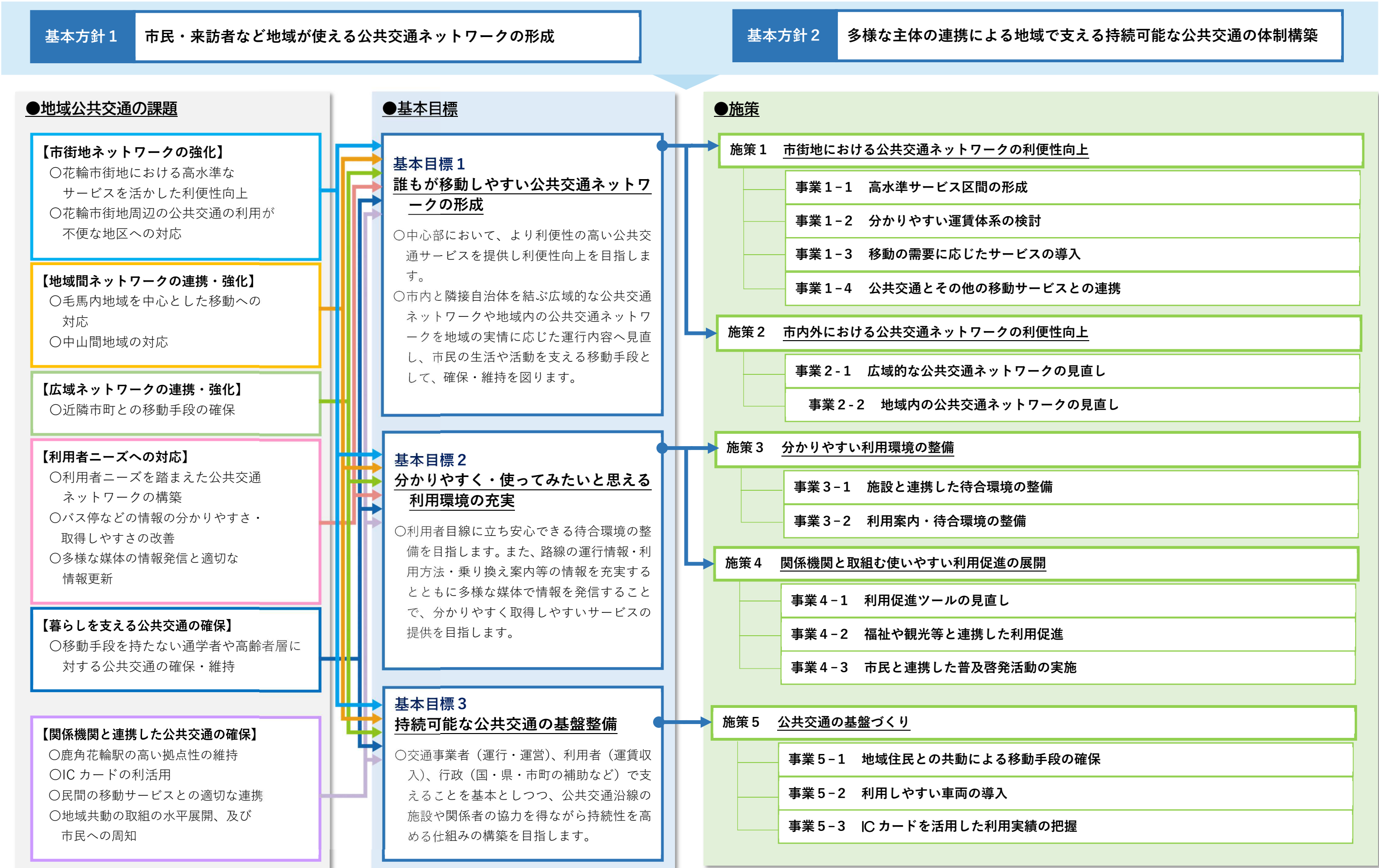


図 将来ネットワークのイメージ

基本目標

公共交通を取り巻く環境の変化や本市が抱える課題などを踏まえ、新たな将来像の実現に向け、次の3つの基本目標を設定し、各種施策・事業の展開により目標の達成を目指します。



3 目標達成に向けた施策・事業

施策1 市街地における公共交通ネットワークの利便性向上

【事業 1-1】高水準サービス区間の形成

- 花輪市街地周辺において公共交通を利用しにくい地域に対し地域の特性（道路状況や移動量・属性など）に応じて移動手段の確保を検討し、花輪市街地の回遊性向上を図ります。
- 大湯地域や山根地域、末広・瀬田石地域などの市北部に位置する地域は毛馬内地域を中心とした移動実態がみられることから、地域内の公共交通ネットワークを見直し毛馬内地域へのアクセス向上を図ります。
- 地域における移動の活性化を図るため、鹿角花輪駅ーかづの厚生病院ー十和田南駅のハブ拠点を結ぶ区間を「高水準サービス区間」として形成します。
- 「高水準サービス区間」は、分かりやすくダイヤを見直し、利便性向上を図ります。さらに施策4と組み合わせサービスを可視化し認知度向上を図ります。

【事業 1-2】分かりやすい運賃体系の検討

- 「高水準サービス区間」の運賃体系の見直しを検討し、区間内の運賃を分かりやすい運賃体系へと見直し、便利なサービス区間を目指します。（例：乗り継ぎ運賃、ゾーン運賃、共通フリーパスなど）

【事業 1-3】移動の需要に応じたサービスの導入

- 花輪市街地の公共交通不便地区に住む市民の移動を支えるため、移動需要を的確に把握します。
- 移動需要量に応じて、交通事業者及び市が運行する既存の公共交通の運行形態や運行内容を見直します。
- 既存の公共交通の見直しでカバーできず少量で分散した移動需要量の場合は、地域住民との共動による移動手段や新しい技術を活用した AI オンデマンド交通の導入を検討します。

【事業 1-4】公共交通とその他の移動サービスとの連携

- ハブ拠点において鉄道、路線バス、地域内交通等を乗り継いで目的地へ移動できるよう乗場環境やダイヤを見直します。
- 各交通機関でダイヤ改正の時間差による持続性の損失を防ぐため、関係者間（交通事業者、行政）でのダイヤ改正情報を共有します。

施策2

市内外における公共交通ネットワークの利便性向上

【事業 2-1】広域的な公共交通ネットワークの見直し

- 秋田県地域公共交通計画と連携し広域的な公共交通ネットワークの確保・維持に努めます。
- 日常生活の移動手段として通勤・通学に利用されているJR花輪線に関して、近隣自治体と連携しながら確保・維持を図ります。
- 地域間連携軸に位置付けている地域間幹線系統は、交通事業者をはじめ県や隣接自治体と協議を行いながら見直しを図り路線の効率化を検討します。
- 路線の見直しを検討するにあたり、利用実績やビッグデータ(ICカード、バスロケーションシステムなどの車両の運行情報データなど)を基に需要の多寡に応じた適正なサービスレベル(路線数・便数・車両総台数等)を見定めながら検討を進めます。

【事業 2-2】地域内の公共交通ネットワークの見直し

- 地域ごとに買い物、通院、通勤・通学において朝夕と日中帯の移動傾向が異なることを考慮し、朝夕は定時定路線型の運行形態を基本とします。日中帯は、利用実態を踏まえ地域の実情にあった運行内容・運行形態へ見直し効率化を図ります。
- 地域内の公共交通ネットワークと広域的な公共交通ネットワークの接続性向上を図るため、特に利用の多い広域的な公共交通ネットワークを構成する鉄道及び路線バスの時間に合わせて地域内の公共交通ネットワークを構成する路線バスのダイヤを見直します。
- 高校再編後の通学に利用できるよう、高校生の通学に利用されている路線は経路の変更及びダイヤの見直しを検討します。

施策3

分かりやすい利用環境の整備

【事業 3-1】施設と連携した待合環境の整備

- ハブ拠点以外では、地域内の公共施設や商店等拠点として位置づけ、屋内の待合環境の充実や、雨や雪などの悪天候であっても路線バスを待ちやすい環境の整備について検討します。

【事業 3-2】利用案内・待合環境の整備

- 交通結節機能(乗場案内、乗継案内、行先表示等)を備えたバス停標識等を改善し、案内機能を強化します。

施策4

関係機関と取組む使いやすい利用促進の展開

【事業4-1】利用促進ツールの見直し

- 鹿角市内バス全路線マップや鹿角市路線バス時刻表に高水準サービス区間を分かりやすく表示するとともに、ICカードの導入や運賃など利便性向上をPRする内容へと見直します。
- 鹿角市路線バス時刻表は鉄道・路線バス・乗合タクシー等の市内を運行する公共交通のダイヤが一体的に示された時刻表への見直し、わかりやすさの向上を図ります。

【事業4-2】福祉や観光等と連携した利用促進

- 鹿角市内バス全路線マップや鹿角市路線バス時刻表は市民や来訪者へ配布・HPなどで広く周知するほか、転入者や進学など生活スタイルが変わる時期に合わせて配布し最新の情報発信を組み合わせます。
- ダイヤや運賃を国の指定様式(GTFS-JP)へ変換し、データの公表を進めます。また、データ更新を適切に行い、最新の乗合情報案内事業者(google や NAVITIME 等)に提供しスマートフォンを活用した情報発信を図ります。
- デジタルサイネージを活用し、リアルタイムな情報発信を検討します。
- 電子マネー機能により利用者側のメリットや乗降データの収集・分析に基づく運行計画の検討が可能となるなど事業者側のメリットが享受できる IC カードを導入します。
- 商業施設と連携し、公共交通利用者が買い物をした際に特典を付与するなど、利用促進に努め公共交通の魅力を高めます。
- 観光客向けのフリーパスの販売や観光地で体験できる様々なメニューと公共交通のチケットをセットにした観光向けパスに関して検討します。
- 運転免許証返納者及び高齢者に対し、補助金を活用した支援を継続します。

【事業4-3】市民と連携した普及啓発活動の実施

- バス乗車体験イベントや市民との意見交換会を継続し、公共交通に対する市民の意識醸成を促します。

施策5

公共交通の基盤づくり

【事業5-1】地域住民との共動による移動手段の確保

○需要に応じた新たな交通サービスを検討する場合、地域住民が選択できる交通手段確保の仕組みを推進します。

【事業5-2】利用しやすい車両の導入

○高齢者等の利便性向上や低炭素な交通システムの実現のため、低床バスやハイブリットバスなど環境にやさしい車両の導入を検討します。

【事業5-3】IC カードを活用した利用実績の把握

○IC カードの利用実態を把握し、利用者の利便性向上や各種施策に活用できるデータを取得します。

○取得したデータ(利用時間帯・乗降場所・属性など)を基に運行状況や利用実態(利用者数・時間帯別利用者数・区間別利用者数・属性別利用者数 など)を適切に把握します。それらのデータを基に運行内容及び運行形態を見直す基礎データとして活用することで路線バスの利便性向上を図ります。